

第2期音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略

音更町企画財政部企画課

はじめに

音更町は北海道の東部、十勝平野のほぼ中央にあり、東部の南北に走る「長流枝内丘陵」を除いてはおおむね平坦で、音更川を中央に土幌川、然別川が北から南に貫流し、いずれも十勝川にそそいでいます。これらの河川が豊じょうな大地を生み、各種農産物の育成に適していて、道内でも屈指の穀倉地帯となっています。全体の面積は、466.02平方キロメートルです。

基幹産業は農業で、主要作物は小麦、ビート、馬鈴薯、豆類、そ菜などで、酪農も盛んです。

廣大で肥沃な耕地は、農作物の育成には適していますが、冷害などに悩まされることもあります。そのため、寒冷地農業の確立を目指して、コストの低減、機械の共同化、さらには基盤整備の推進で、農業経営の近代化を進めるなど、将来に向けての基盤づくりにも積極的に取り組んでいます。

雄大な十勝平野の中央を流れる十勝川のほとりには「十勝川温泉」があります。この温泉は日本を代表する「モール（植物性）温泉」として広く知られ、平成16年11月に北海道遺産に選定されました。



音更町の位置図



家畜改良センター 十勝牧場の馬追い運動

音更町の人口推移

本町の人口（国勢調査）は、昭和35年以降、平成2年の微増以外は平成22年まで大きく人口を増加させ、現在、全道で最も人口の多い町となっています。しかし、平成27年には人口減少に転じ、住民基本台帳での人口（3月末）は、平成24年以降減少傾向が続いています。

一方、少子高齢化は人口増加局面から始まっており、年少人口、生産年齢人口、老年人口の割合は、昭和45年の26.3%、67.6%、6.1%から令和2年には13.0%、57.3%、29.7%となりました。

また、世帯数は昭和45年の5,992世帯から令和2年には18,362世帯へと3倍になりました。一方、1世帯当たりの人員数は4.03人から2.37人へと減少しています。その背景には、三世代世帯の減少、少子化、子どもの進学・就職による転出・独立、高齢夫婦世帯、高齢単独世帯の増加があります。

第6期総合計画及び第2期総合戦略策定の趣旨

本町は、平成23年3月にまちづくりの基本的方向を示す最上位計画として「第5期音更町総合計画」を策定し、「豊かな大地に広がる笑顔 今も未来も住み続けたいまち おとふけ」を将来像に掲げ、その実現に向けて計画的なまちづくりを進めてきました。

この間、日本の人口減少は予測を上回る速さで進み、少子・超高齢社会への対応は、我が国にとって喫緊の課題となり、このことは本町においても例外ではありませんでした。また、安全・安心に対する意識の高まりをはじめ、価値観やライフスタイルの多様化、情報通信技術などの発展、社会・経済のグローバル化の進展など、地域を取り巻く社会環境がこれまで以上に大きく変化している中で、人口減少や少子高齢化の更なる進展、大きな災害を想定した将来を見据えた「持続可能なまちづくり」に取り組むことが求められていました。

このような状況下で、本町を、町民が将来にわたって住み続けたいと思い、町外の人からも移り住んでもらえるような「選ばれるまち」にしていくためには、町民と町の協働の下、多様性を認め合い、共通の方向性・目標に向かって行動し、一体となってまちづくりを進める必要があります。

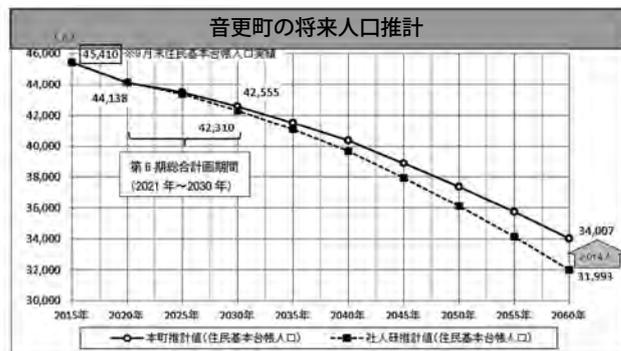
以上を踏まえ、本町が目指すべき将来のまちの姿を描き、その実現に向けた計画的な取り組みの推進を、主役である町民と協働で進めるための指針として、令和3年3月に「第6期音更町総合計画」を策定し、その重点施策として「第2期音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を取りまとめました。

長期人口推計と第6期総合計画期間の想定人口

本町においても今後、人口減少が想定されます。今後のまちづくりでは、今まで以上に長期的な視点に立った人口想定の下でまちづくりを進め、人口減少を抑制する政策を進めていくことが必要です。

本町は、平成27年の「音更町まち・ひと・しごと創

生総合戦略」策定時に2060（令和42）年までを見据えた人口ビジョンを策定して、総合戦略、総合計画を進め、令和3年3月には、人口ビジョンを見直しました。その結果、本町人口は2030（令和12）年に42,555人、2060（令和42）年には34,007人になると推計しております。これは、国立社会保障・人口問題研究所による人口推計（2030〔令和12〕年42,310人、2060〔令和42〕年31,993人）より、それぞれ245人、2,014人多くなります。



(出典：第6期音更町総合計画)

総合戦略における基本目標と具体的な施策

【基本目標1】地域経済を活性化させ、雇用の場をつくる

地域資源を活かした産業振興・企業誘致・起業支援などに関係機関が連携して取り組み、域内経済の基盤の強化・活性化を図り、ワーク・ライフ・バランスを実現する安定した雇用の場をつくるとともに、人材の育成・確保とその活躍を促進します。

具体的な施策

- (1) 農業経営の安定化
- (2) 担い手、労働力の確保
- (3) 商業者の経営安定に向けた支援 など

【基本目標2】移住・定住を推進し、音更への新しいひとの流れをつくる

UIJターン、進学、就職、住宅取得など様々な機会に応じた転出抑制、転入支援により定住人口の増加に向けた対策を実施するとともに、観光などによる交

流人口や関係人口の拡大に向けて町民、関係機関が連携して取り組み、本町の魅力を積極的に発信することで、誘客の促進と関係性の構築に努めます。

具体的な施策

- (1) 交流人口の拡大に向けた観光振興事業の推進
- (2) 空き地、空き家の有効活用
- (3) 地域の活性化につながる関係人口の創出・拡大など

【基本目標3】結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちをつくる

結婚を望む人や子どもが欲しい人の希望がかなえられるまちの実現に向け、地域の実情に応じたきめ細かな支援を行います。家庭や職場などでのジェンダー平等、女性の活躍、仕事と出産・子育ての両立など仕事と生活、社会活動の調和の実現に向け、地域社会、教育機関、企業などと連携して取り組みます。

具体的な施策

- (1) 教育環境の整備
- (2) 母子保健の充実
- (3) 男女共同参画社会の実現 など

【基本目標4】ひとが集う、安全・安心で快適に住み続けられるまちをつくる

誰もが安全・安心でいつまでも快適に過ごすことができるよう、効率的で効果的な行政運営を推進するとともに、地域の多様な担い手の参画と地域内外の連携を図り、町民の生活を取り巻く課題の解決と地域の強みを活かしてまちの魅力化に取り組み、支え合いのまちづくりを推進します。

具体的な施策

- (1) 循環型社会づくりの推進
- (2) コミュニティバスと農村地域予約制乗合タクシーの利便性向上
- (3) 高齢者の社会参加、生きがいづくりの促進など

取組事例1

【おとふけ町ビジネス創出拠点昭和学校Palette】

令和4年度に旧昭和小学校をリノベーションし、サテライトオフィスやコワーキングスペースを活用して都市部にいるときと遜色のない仕事ができる環境を整備しました。また、音更・十勝の農畜産物を活用したスイーツなどで起業などを目指す人向けのシェアキッチンを整備し、利用者自らが、保健所の営業許可を取得することで、ここで製造したものを販売することができます。オープン以来多くの方がここで起業して事業を営んでいます。



昭和学校Palette



シェアキッチンで作ったパン



シェアキッチン内

取組事例2

【道の駅おとふけ なつぞらのふる里】

町の魅力を発信し、町内外の人々の交流促進のため移転オープンした道の駅おとふけは、令和4年4月のオープン以来、入場者が300万人を超えるなど、本町の魅力発信に大きく寄与しています。

道の駅おとふけは、「食の聖地」をコンセプトに9つの飲食店のほか、農畜産物等販売所「なつぞら市場」を設け、十勝・音更の食を集結させています。また、NHK連続テレビ小説「なつぞら」のセットを再現したなつぞらエリアやキッズコーナーのほか、公園、ドッグランなどもオープンしています。さらに、令和5年は年間で334件のイベントを開催するなど、観光に訪れる人だけでなく町民同士の交流の場にもなっています。



道の駅おとふけ なつぞらのふる里



なつぞらエリア



なつぞら市場

おわりに

令和2年に開町120年を迎えた音更町は、開拓の礎である農業を中心に、商業・工業・観光の振興と生活基盤や子育て環境の整備を進めるとともに、町民福祉や教育・文化の充実を図り、民間の活力も生かしながら、豊かな自然と快適な都市空間が調和した「住みよいまち」へと発展し続けてきました。

町民はもちろん、町民以外の人たちも、音更町で「暮らし」、「学び」、「働き」、あるいは「訪れる」ことを望み、「住み続けたい」、「住んでみたい」と感じてもらえる、誰にとっても「住みよい」、「選ばれるまち」をみんなで創り、未来へつないでいくことを目指して、各種施策を推進していきます。